

次号予告

特集 研究方法

研究方法—効果判定の方法—	東京医歯大	佐久間 昭
アンケート調査の仕方	都老人研	副田 義也
論文の書き方	都心障センター	寺山 久美子
英文での論文の書き方	府中リハ学院	鈴木 明子
症例研究の仕方	七沢病院	竹谷 春逸
	都心障センター	古川 宏
研究テーマの見つけ方	都老人研	鎌倉 矩子・他
座談会／研究法	東大	上田 敏・他
研究に関する参考文献	都心障センター	寺山 久美子

とびら OTの広がりを中心を求めて..... 東京病院 佐々木 光子
 チームの中のPT・OT 座談会／職業カウンセラーとPT・OT... 拓杏園 花村 都・他
 メディカルプログレス 失語症(2) 利き手と失語症の回復

および片麻痺との関係..... 七沢病院 福井 園彦
 肩手症候群..... 九州厚生年金病院 三好 正堂

Q and A A: 沼野一男・Q: 加藤栄昭

編集後記

理学療法士学会、作業療法士学会、リハビリテーション医学会と関係諸学会も盛況のうちに終了したようである。読者諸氏もホッと一息つかれ夏休みの計画に頭をめぐらしている頃であろう。10巻7号はそうしたリラックスムードを吹きとばすかの如く充実した論文が続いている。本号の特集は「義肢」をおとどけする。まず加倉井論文を読んでいただくと本邦における義肢の歴史と現在での種々の問題点が一望できる。視野を広くする意味で熟読していただきたい。以下PT・OTの立場から現代の最先端の義肢の訓練法を中心に御執筆いただいた。筋電電動義手(高梨他)、術直後(塚口他、福田他)、骨格義肢(鈴木他)、である。とびらの「褥創管理の自立」(今村論文)もぜひ味わって読んでいただきたい。褥創の

自己管理ができるか否かが脊損者のリハビリテーションの決め手の1つになるのが今日の現実の姿であるからである。「研究と報告」は3論文掲載した。指椎間距離(佐々木他)の発想は新しく、微細な肩の可動域障害の測定に適している。また老人の骨折(須崎他)ではADLと知能の関係を主としてとり上げている。それにDown症候群児の機能訓練での一考察(矢内他)である。この他、講座は運動学シリーズの第4弾で股関節の2回目、「精神科OTの実際」では先に掲載した大橋論文への反響がのせられている。また、メディカルプログレス、Q and A、本の紹介なども併せて読んでいただきたい。最後に「懸賞論文」にぜひ応募していただくことをお願いしておく。暑さに向う折、健康上留意されることを祈りつつ。

(寺山久美子)

<編集顧問>

天 児 民 和
九州労災病院長
五 味 重 春
府中リハビリ学院長
砂 原 茂 一
国立療養所東京病院長
津 山 直 一
東京大学教授・整形外科
水 野 祥太郎
川崎医科大学学長
(五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上 田 敏
東大リハビリ部
荻 島 秀 男
都養育院リハビリ部
佐 藤 馨
神奈川リハセンター
鈴 木 明 子
府中リハビリ学院
谷 岡 淳
自治医科大学
田 村 美枝子
清瀬リハビリ学院
寺 山 久美子
都心障センター
松 村 秩
都養育院リハビリ部

<編集同人>

明 石 謙
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
大 橋 博
鎌 倉 矩 子
紀 伊 克 昌
小 林 夏 子
駒 沢 治 夫
佐 藤 剛
田 原 澄 彦
富 岡 詔 子
奈 良 勲
藤 沢 しげ子
藤 本 欽 也
前 田 守 子
松 本 妙 子
矢 谷 令 昭
山 下 隆 巖
横 山 巖
和 才 嘉 昭
(担当 細田・松橋)